

平成30年度 連携・協力事業の実施状況について

教育課題研究専門部会

【プロジェクト名】 教師力・学校力向上に資する実践研究

1 プロジェクトの目的・概要

佐賀県教育センターの研究の質の向上を図るとともに、教育センターの研究成果を有効に活用して、佐賀大学教員養成課程における教員志望学生の育成の充実を図ることを目的として、連携・協力事業として「教師力・学校力向上に資する実践研究」に取り組む。本プロジェクトを通して、佐賀県の教師力、学校力の向上に資することとする。取組としては、教育センター研究調査事業で取り組んでいるプロジェクト研究等に対して、佐賀大学文化教育学部教員による専門的な見地からの助言を受けるとともに、教育センター研究成果の佐賀大学教員養成課程の講義等での有効な活用を図る。

2 平成30年度の実施実績

(1) 教育センターが平成30年度に取り組んだ研究と連携した佐賀大学教員

教育センターの研究	研究担当所員	連携する佐賀大学教員
小学校国語科教育	橋本亜, 北村	教育学部 教授 達富 洋二
中学校国語科教育	目野, 岩瀬	教育学部 教授 達富 洋二
小学校算数科教育	副島, 新	学校教育学研究科 准教授 米田 重和
中学校数学科教育	長野, 三浦	学校教育学研究科 准教授 米田 重和
中学校英語科教育	佐藤, 橋本真	教育学部 准教授 林 裕子
小・中・高等学校教育相談	堤, 森永, 江頭 川副, 辻, 原田	学校教育学研究科 准教授 下田 芳幸
小・中・高等学校食育	岡本, 中島	学校教育学研究科 教授 岡 陽子
中学校美術科教育	古川	教育学部 教授 栗山 裕至

(2) 連携の進め方(図参照)

月	研究の段階	連携方法・内容		
		教育センター	【教師力・学校力向上に資する実践研究】	佐賀大学
4月	問題提起・ 課題設定を する	研究要項作成	①御挨拶・今後の日程調整等	教育センター研究成果の 有効な活用(講義等)
5月			②研究の方向性の説明	
6月	研究の 方向性を策定 する	研究計画策定	研究の方向性についての助言	
7月			③検証授業参観等の案内	
8月	実践する	実践 検証授業	(参観・参加・助言)	
9月			※佐賀大学教員の検証授業参観等については、 研究担当所員よりメール等を通じて案内する。	
10月			④成果・課題(Web原稿等)の提示	
11月	研究を まとめる	実践結果の 分析・考察 Web等の作成	まとめや次研究への助言	
12月				
1月	成果と課題を 分析する	次研究に向けた 調査・分析		
2月				
3月				

図 教育センターの研究に関する佐賀大学との連携計画

（実施総数）

- ア メールまたは電話による報告，連絡，相談を行う。（H29:237件 H30:96件）
- イ 教育センターが実施する検証授業または研究委員会に佐賀大学教員が参加する。
（H29:6回 H30:3回）
- ウ 所員が佐賀大学を訪問し，助言を受ける。（H29:25回 H30:4回）
- エ 連携する佐賀大学教員から資料等の提供を受ける。（H29:16回 H30:10回）
- オ 連携する佐賀大学教員が教育センター研修講座の講師を務める。（H29:11回 H30:9回）
- カ 教育センター所員が佐賀大学の授業で講話を行う。（H29:2回 H30:0回）

（成果）

研究内容や研究の妥当性について，連携する佐賀大学教員から理論的，専門的な助言を得たことで，研究の方向性が明確になり研究の質が向上した。教育センター研究担当所員及び研究委員にとって，有用な研修の場となっており，研究に向けた意欲へとつながっている。

教育センターが実施した公開授業研究会（小算，中数，中英）の授業研究会において，佐賀大学教員から指導助言を受けた。理論的，専門的な見地から話をしていただいたことで，参加者の研究内容への理解が深まり，活用意識が高まった。

佐賀大学教員の協力を得ながら開催している「サタセン（教育センターが主催する土曜日の自主研修）」がある。教育センター所員及び参加した県内の教員の資質向上につながっている。

（課題）

連携事業をスムーズに行うためには，本プロジェクトの目的及び内容に関して共通理解を図っておくことが必要である。共通理解を図る場を教育センターと佐賀大学双方で適切に設定するなど，今後も改善を図る余地がある。

教育センターの研究成果を有効に活用して，佐賀大学教員養成課程における教員志望学生の育成を図るという側面での取組について，今後も充実を図る余地がある。

3 今後の予定等

現在，教育センターでは，今年度の研究成果を3月にWebにて公開するため，コンテンツを作成している。作成したコンテンツについては，佐賀大学教員から助言をもらうことになっている。

今年度，様々な研究委員会で効果的な連携を図ることができた。来年度も，佐賀大学教員の助言を受け，研究の質の向上に努めたいと考えている。是非，本連携事業を継続してほしいと考えている。